

「アイヌ古式舞踊」の 多様なかたち

さいとう れいこ
齋藤 玲子 民博 民族文化研究部

舞踊をはじめとする芸能が文化遺産として公的認定を受けると、上演の機会やプロの担い手が増える。日本のユネスコ無形文化遺産でも、そうした「舞台化」をめぐる議論がおこなわれている。

複数の指定団体と多様な活動

「アイヌ古式舞踊」は、一九八四年に国の重要無形民俗文化財に指定された。そして二〇〇八年には「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」への日本の第一回提案としてユネスコ事務局に提出されて、翌二〇〇九年に記載された。国の文化財に最初に指定されたのは、春採と阿寒（現在はいずれも釧路市）、帯広、浦河、静内、平取、白老、近文（旭川市にある八つの団体だったが、ほかの地域でも踊りの復興に力を注ぎ、一九九四年には

九つの団体が追加され、現在は一七団体となっている。アイヌの踊りは、おもに祭祀のときに演じられ、カムイ（神・霊魂）に訴えかけるものから、杵つきなどの作業歌舞、動物の動きを模した踊りや、娯楽的・即興的なものまで多様である。踊りは歌をとめない、歌詞は比較的短く、決まり文句や掛け声、動物の鳴き声などの組み合わせが繰り返される。樺太や古い記録では北海道にも楽器の伴奏があったが、手拍子のほかは声だけで踊る、といった共通点をも

つ。いっぽう、地域によって伝承されている演目には違いがあり、同じ演目でも内容が異なることがある。「アイヌ古式舞踊」は、そもそも多様なものを含むゆるやかなくりといえる。また、指定されている団体以外にも、各地に踊りをふくむアイヌ文化の伝承活動をしている団体がある。道外に住む人たちのグループや、地域をこえて活動をする若手の集団もある。こうしたグループのなかには、古い写真や音声記録などから現代に伝承されていない踊りの復元を

国の重要無形民俗文化財の指定を受けた古式舞踊保存会

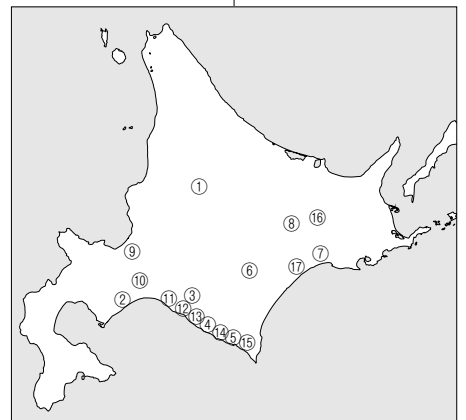
【1984年指定】

- ①旭川チカッピ
アイヌ民族文化保存会
- ②白老民族芸能保存会
- ③平取アイヌ文化保存会
- ④静内民族文化保存会
- ⑤浦河ウタリ文化保存会
- ⑥帯広カムイトウウボボ保存会
- ⑦春採アイヌ古式舞踊釧路リムセ保存会
- ⑧阿寒アイヌ民族文化保存会

【1994年指定】

- ⑨札幌ウボボ保存会
- ⑩千歳アイヌ文化伝承保存会
- ⑪鶴川アイヌ文化伝承保存会
- ⑫門別ウタリ文化保存会
- ⑬新冠民族文化保存会
- ⑭三石民族文化保存会
- ⑮様似民族文化保存会
- ⑯弟子屈町屈斜路古丹アイヌ文化保存会
- ⑰白糠アイヌ文化保存会

北海道立アイヌ民族文化研究センター編 2001『ボン カンピソシ』7「芸能」をもとに作成



試みる人たちもいれば、さまざまに楽器を用いて新しいアレンジで踊りを創造する人たちもいる。

継承のかたち

演目のほかに異なるのは、その継承の方法である。もともとは地元でおこなわれる初漁・収穫の祭や、先祖供養や結婚式などの宴の際に踊られ、子どもたちから自然に身につけたのだろう。しかしいまはそうした祭祀や儀式が減り、多くの保存会では定期・不定期に「練習」をおこない、踊りを「披露」する機会に備えている。文化財の指

定以前から他地域の祭などで踊ることはあったが、一九八九年に始まった北海道アイヌ協会主催の「アイヌ民族文化祭」や、一九九七年に施行された「アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統等に関する知識の普及及び啓発に関する法律」以降は、全国各地でおこなわれる「アイヌ文化フェスティバル」や芸能祭などで踊ることが急増した。

それにとめない、観客を前にして舞台で踊るという状況が増えていった。各地で民族芸能の「舞台化」が問題視されてきたが、アイヌの踊りも同じ課題

に直面している。阿寒アイヌ協会が主催する「カムイノミ」をとおして、一般の参加者も輪に入って踊る



みんなのカムイノミで、一般の参加者も輪に入って踊る



国際研究大会のパンケットのステージで弓の舞を披露する阿寒アイヌ工芸協同組合の踊り手

定以前から観光客向けに踊りを演じてきたところでは、舞台での踊りに慣れていく人が多く、見せる演出もおこなわれてきたが、そうではない大部分の地域でも、舞台映えを考えねばならなくなってきたのである。

アイヌ文化を 紹介する立場から

こうした事情を頭ではわかっていたにもかかわらず、筆者は数年前、とあるイベントでステージにあがった保存会の人たちの、踊りはさておき、演目紹介の語りや次の演目に移る際の動きのぎこちなさなどが気になってしまった。前後に歌や踊りを披露した、プロとして活動しているユニットや若手グループの演技とどこかで比べてしまっていたのだ。みんなくでは、例年秋にアイヌの標本資料の保管と伝承を祈

る儀式「カムイノミ」をとおしている。二〇〇七年からは北海道アイヌ協会に属する各地の団体を招聘して、カムイノミと併せて古式舞踊の演舞を一般公開している。このときは、カムイノミが主であるため、重要無形民俗文化財の保護団体として指定されているか否かは問っていない。

いっぽう、筆者は今年五月におこなわれた日本文化人類学研究会（国際人類学民族科学連合と同時開催）で、パンケットの余興としてアイヌの舞踊のアレンジを頼まれた。無形文化遺産に記載されている団体の方がより研究者たちに関心をもってもらえると考え、さらにステージ慣れしている「阿寒アイヌ工芸協同組合」に出演を依頼した。観覧した多くの方から「よかったです」と言っていたが、選択は間違っていないかと安堵した。しかし、アイヌの舞踊のどのような面を見てもらうのかを、つねに考え続けていた。